

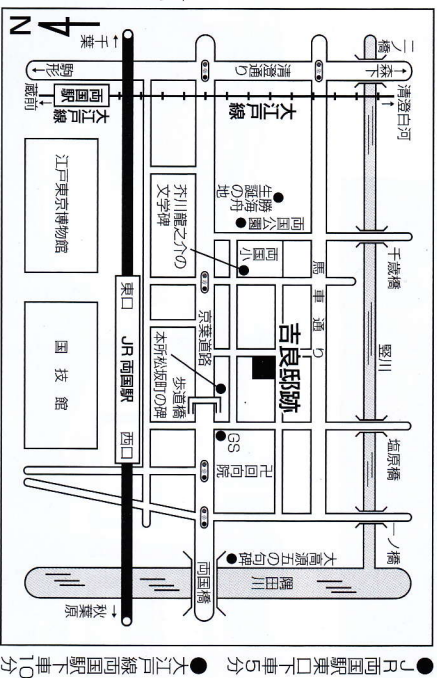
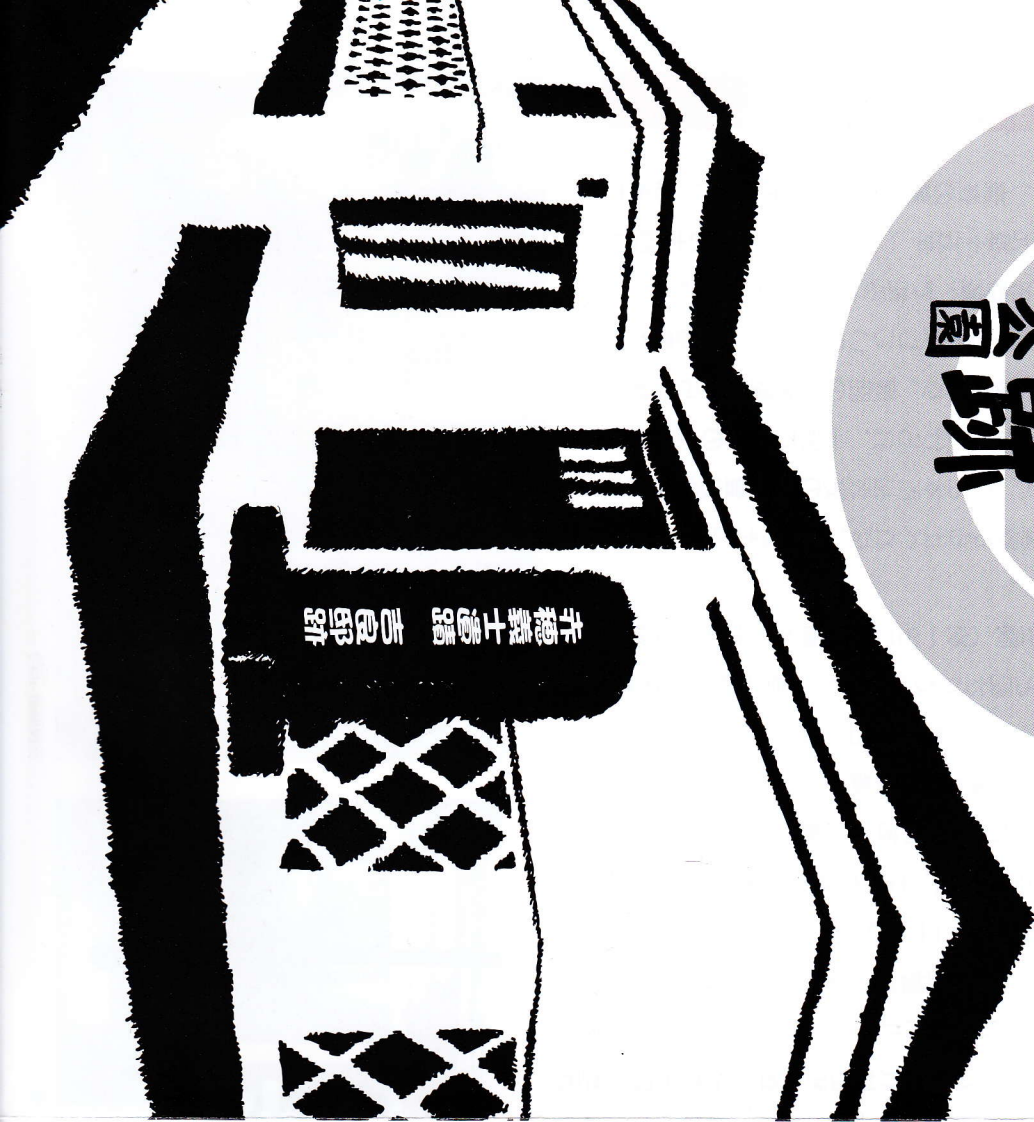
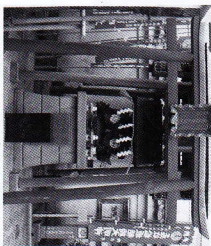
吉良家は、清和天皇の後裔で先祖は足利左馬頭義氏。江戸城における一切の典礼を司る高家の地位を得たのは、祖父義弥の時です。寛永十八年生まれで三郎の幼名を名づけた義央は、十三才で將軍家綱に謁見しました。のちに、京への使者を任せられ、立派にその大任を果たすことからは後有職故実の家柄として重用されるようになります。賢客を応待することにかけては、義央はまさに天才だったと云えます。忠臣蔵では悪役に仕立てられた上野介でしたが、領地の三河の吉良(愛知県吉良町)では評判が高く、町の人は今でも「吉良様」と呼んで敬っている蓋故の殿様でした。新田の開拓や堤業の発展に尽力するなど、多くの事業で成功をおさめ、特に一昼夜で築いたといわれる長七百八十一メートルの堤があり、この治水工事で豊作が保証されたことから、今でも「黄金堤」と呼ばれています。領地に滞在している間には赤い馬に乗って領内を巡回するのが日課としており、「吉良の赤馬」は名君吉良様と共に今でもその名を残しています。



墨田区長 山本亨
赤穂浪士の討入りから、三百年以上の月日が経ちました。町並みや人々の暮らしが変わっても、忠臣蔵の物語は、今も私たちの心に響き続けます。そうした中、この吉良邸が、地域の皆様の志により、いにしへの面影を残し保存されてきていることは、大変意義深いことでもあります。この吉良邸跡は、現在、本所松坂町公園として、開園されていますが、今後とも、地域の皆様の御協力を得て、都指定旧跡、墨田区の名所として、多くの方々に訪れていただけるよう努めてまいります。

■ 松坂稲荷

園内にある「松坂稲荷」は、徳川氏入国後、水門内に鎮座された稲荷兼春稲荷と、古くこの地に祀られていた「上野稲荷」の地に二社を合祀し、昭和十年当所に遷座されたものです。



● JR西線駅東口下車5分 ● 大江線西園駅下車10分

両国三丁目吉良邸跡保存会
会長 岡崎安宏
副会長 市川博保
連合会
会長 墨田区観光協会
一般社団法人